

2024年度 教育活動委員会 理事会企画
新人看護教員のための授業づくり
～技術演習の組み立てと運営に関する困りごと～

日本看護学教育学会 第34回学術集会において、教育活動委員会の理事企画が行われました。多くの皆さまにご参加いただきありがとうございました。当日の様子と参加者アンケートの集計結果をご報告いたします。

当日は予想以上の皆さまにご参加いただき、一部の方々に資料が届かない不行き届きが発生しましたことをお詫びいたします。資料ご希望の方は以下URLよりご請求ください。(〆切10月31日)

<https://forms.gle/PUMotrSBURu3oYHq7>

1. 本企画の主旨

新人看護教員の教育力向上をねらい、新人看護教員による技術演習の組み立てと運営に関する困りごとに着目し、解決のヒントを看護学および教育学的な知見や経験から学び、参加者と共有する。

2. 日時 令和6年8月20日(火) 9時～10時

3. 開催場所 京王プラザホテル 第1会場

4. 当日プログラム

時間	項目・演者
9:00	オリエンテーション
9:05	技術演習に関する「こまりごと」エピソード 横林康子 先生 (中部大学生命健康科学部保健看護学科)
9:12	技術演習という授業の側面 新井英靖先生 (茨城大学) / 白水真理子先生 (姫路大学) 授業づくりのヒント 栗原幸子先生 (沖縄県立看護大学) 服部美穂先生 (人間環境大学) 江本リナ先生 (日本赤十字看護大学)
9:45	ディスカッション・質疑応答
9:55	まとめ

当日の様子



ご挨拶
茂野香おる教育活動委員会委員長



中部大学 横林康子 先生による
「困りごと」エピソードの紹介

技術演習という授業の側面

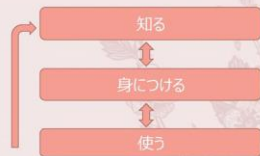
まとめ



白水眞理子 先生
(姫路大学)

- ①デモンストレーション
- ②実技演習の進め方
- ③発展課題
- ④習得したことをどのように把握するか（評価）
 - ①～④は集約されたものとして成立しているのか
 - ①～④へと段階的に学ぶプロセスなのか

「授業内で行うこと」「授業外で行うこと」を意識し、演習を組み立てる



* 今回の理事会企画ではこの切り口で授業づくりのヒントをお伝えします！

3名の先生方による授業づくりのヒント



栗原幸子 先生
(沖縄県立看護大学)



服部美穂 先生
(人間環境大学)



江本リナ 先生
(日本赤十字看護大学)



会場を交えてディスカッション



まとめとご挨拶
水方智子教育活動委員会副委員長

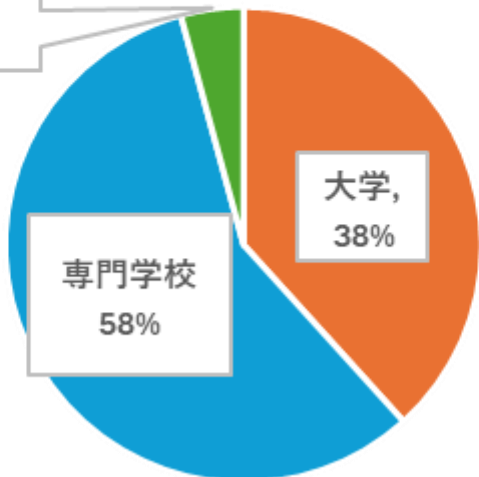
会場参加者からのアンケート結果

参加者：延べ約247名

アンケート回答者：47名(回収率19.0%)

会員26名(55%)、非会員21名(45%)

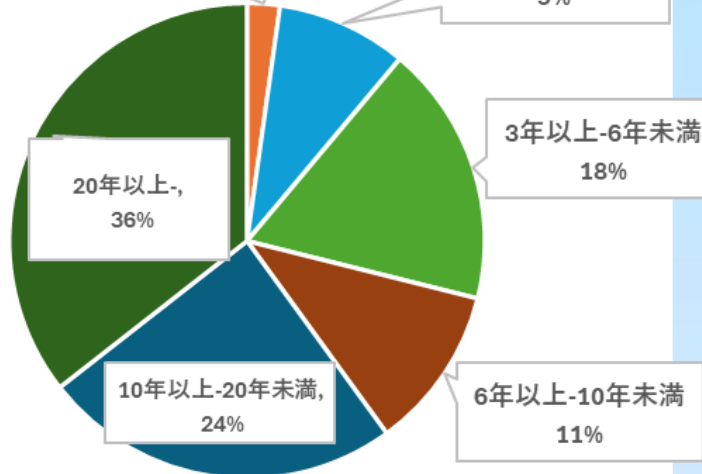
病院・施設,
4%



所属機関

1年未満
2%

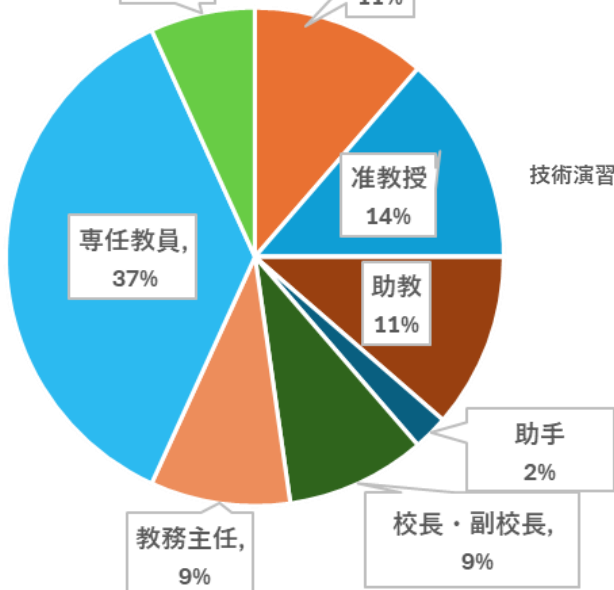
1年以上-3年未満
9%



教員経験年数

その他
7%

教授
11%



職位

「困りごと」のエピソード

27

技術演習という授業の側面について

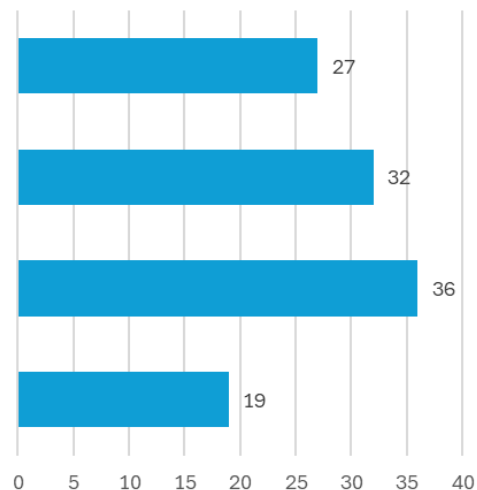
32

授業づくりのヒント

36

ディスカッション

19



役に立つと思った内容 (複数回答)

本企画の感想（自由記述）一部抜粋

新人教員の困りごとを改めて認識でき、スタッフミーティングの重要性を再認識できた。

話題提供いただいた教員のエピソードは、昨年非常勤講師として入った時からの悩みと似ていて共感できた。

演習時間内だけでは習得できないことを他の領域、科目でも学ぶことで蓄積されていくことを改めて気づくことができた。

個々の教員にはそれぞれの困り事があると考えながら技術演習を共に考えていこうと思う。看護技術を習得できていない新人教員ばかり。具体的なエピソードについての回答という流れは、とてもわかりやすかった。

どの教員も同じような悩みを抱えていることに共感した。授業で学生がどこまで理解できているといいのかなどを教員間で共有したり、授業内容の検討をしていくことが大切だと気づいた。

初心に帰ることのできる内容で、とても参考になった。

新人教員への指導だけでなく、自分自身の授業を見直す機会となった。

困りごとが現実的で具体的だったことで、いただいたヒントがとてもしっくりきた。

新任教員を指導する立場となり改めて困りごとに寄り添った関わりが必要と感じた。

新人教員の困りごとが手にとるようにわかった。自分自身も同じような困りごとを抱えながらきたので、悩んでいる教員の声を聞いてあげたいと思った。

教員の方たちの授業への探究心が伝わってきて、一体感を持つことができた。

素材を選ぶ時には心動かす視点が必要だと改めて感じた。他の人が作った教材と一緒に授業をする時にはかなり読み込みが必要な訳がわかった。

大学でも専門学校でも悩んでいる内容や学生像は同じなのだと安心した。

すでに動画がある中で、演習時のデモンストレーションは必要なのかと考えてしまう。患者設定を変えたり、細かな技術方法を異なるパターンで伝えたりするなど、方法を変えてやっていこうと思う。

新人教員の困りごとについて再確認した。また、各教育機関での学生の多様化について考えさせられた。

私はまだ学生として講義や演習を受ける身であり、教員としての視点はない。しかし、先生方がどの様に講義と演習を組み立て、学生の「看護」の理解の為に試行錯誤しているのか、その一部始終を学ぶことができ、将来教員を目指すにあたって有意義な時間だった。

発表者が全て大学の教員だったため、専修学校の教育方法も伺いたかった。

技術を磨こうという意志が大切なのではないか。

わかりやすかったが、授業づくりとシラバスの関連をみることも必要と思った。

教員の技術不足。教えることはできるけど…。デモをしなくなり動画に頼っているからだと思う。

アンケート回答のご協力、ありがとうございました。



当日はたくさんの方にご参加いただきました。
次回学術集会の理事会企画で
またお会いしましょう！

一般社団法人 日本看護学教育学会
教育活動委員会委員一同